

# 実践のまとめ（第6学年 外国語科）

南魚沼市立上田小学校 教諭 高橋 遼

## 1 研究テーマ

### 言語活動を軸とした単元構成と授業づくり

～進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする姿の具現を目指して～

## 2 研究テーマについて

### (1) テーマ設定の意図

外国語科では、言語活動が学びの中心であり、言語活動を軸として単元を構成することが重要である。言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」である。よって、そもそも、児童が自分の考えや気持ちを伝えたいと思う環境（特に、目的や場面、状況）を設定できなければ、真の言語活動とは言えない。

自身のこれまでの授業を振り返ってみると、言語活動を設定することは意識しつつも、児童の「考えや気持ちを伝えたい」という思いよりも、自身の「考えや気持ちを伝えさせよう」という思いの方が強い授業が多かったと反省する。教師主導の授業から脱却しない限り、「主体的・対話的で深い学び」の実現も到底あり得ない。児童に任せられることは任せ、児童が主体となる真の言語活動の設定が大きな課題の一つであると感じたため、このテーマを設定した。

### (2) 研究テーマに迫るために

「小学校外国語教育の指導と評価」（文溪堂、2021）では、言語活動の5つの条件が示されている。（表1）

表1 言語活動の5つの条件

ア	実際に英語を用いた活動であること
イ	互いの考えや気持ちを伝え合う活動であること
ウ	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確であること
エ	児童が興味・関心をもてる身近な題材が設定されていること
オ	体験的な活動であること

この中で、自身が特に課題だと感じるウとエについて、以下の手立てを意識する。

#### ①目的や場面、状況の具体的な設定と提示

児童が言葉でやり取りすることの楽しさを実感するためには、ごっこ遊びではない、本物のコミュニケーションが必要である。本当の自分の考えや気持ちを伝え合うためには、何のために伝え合うのか、どんな場面で伝え合うのかなどの具体的な設定が欠かせない。

そこで、言語活動の際に、表1の「ウ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などが明確であること」という条件を満たすように、目的や場面、状況を丁寧に児童と共通理解を図る。その際、目的や場面、状況を黒板にも掲示して、児童がコミュニケーションの場面の状況を具体的に想像できるようにする。

#### ②興味・関心をもてる身近な題材や環境（目的や場面、状況）の設定

児童が自分の考えや気持ちを伝え合いたいと思うためには、児童が興味や関心をもちそうな題材を設定することが必要である。特に、自分や友だちのこと、身の回りのこと、日常生活に関することなどは、児童が進んで伝え合いたいという思いをもちやすい。

そこで、言語活動の際に、表1の「エ 児童が興味・関心をもてる身近な題材が設

定されていること」という条件を満たすように、児童の気持ちに寄り添ったゴールを設定する。例えば、「前担任や、昨年度転校したクラスの子どもなどに、夏休みにしたことを映像や絵日記で分かりやすく伝える」というゴールとしたい。

### (3) 研究テーマに関わる評価

- ① 研究単元の事前と事後の授業アンケートの記述を比較し、事前から事後にかけて、進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする記述が見られる。
- ② 研究単元の事前と事後の授業アンケートの点数を比較し、事前から事後にかけて、進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする意欲が高まる。

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

Lesson 4 “My Summer Vacation” (ONE WORLD Smiles 6 教育出版)

### (2) 単元（題材）の目標

夏休みにしたことを伝え合うために、夏休みにしたことや感想について、具体的な情報や大まかな内容（概要）を聞き取ったり、伝え合ったりすることができる。また、夏休みにしたことに関する例文を参考にして、文を書くことができる。

### (3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;知識&gt; 夏休みにしたことを尋ねたり答えたりする表現 (What did you do?, I [enjoyed / ate / saw / went to] ....など) や感想の言い方 (It was ....など) について理解している。</li> <li>・&lt;技能&gt; 夏休みにしたことを尋ねたり答えたりする表現 (What did you do?, I [enjoyed / ate / saw / went to] ....など) や感想の言い方 (It was ....など) について、伝え合う技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのことを知るために、夏休みにしたことや感想について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのことを知るために、夏休みにしたことや感想について、これまでの学習の中で気付いたことを活かしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合おうとしている。</li> </ul>

### (4) 単元の指導計画と評価計画（全7時間、本時4／7時間）

時	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の表現を聞き取る。</li> <li>・過去の表現を音声に合わせて、声を出す。</li> <li>・単元のゴールを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎過去にしたことの表現に慣れ親しむ。</li> <li>◎単元のゴールについて、見通しをもつ。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の表現を正しく聞き取る。</li> <li>・過去の表現を音声に合わせて、声を出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎したことを伝える表現に慣れ親しむ。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の表現を曲に合わせて、歌う。</li> <li>・音声を聞き、内容を理解した上で、発音しながら英文を指でなぞる。</li> <li>・音声で聞こえた順に文を組み立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎語順を意識して、したことを表現することに慣れ親しむ。</li> </ul>	
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みにしたことを尋ねたり、答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎夏休みにしたことを、感想などとともに伝え合う。</li> </ul>	<b>知・技</b> 過去形の表現を正しく理解している。言葉で表現する技能を高めている。【行動観察】
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声を聞き、当てはまる絵日記を選ぶ。</li> <li>・絵日記を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎やり取りのイメージをつかみ、夏休みにしたことの絵日記を作る。</li> </ul>	

6	・絵日記を使って、夏休みにしたことを伝え合い、よかった点や感想を話し合う。	◎絵日記を使って、夏休みにしたことを伝え合う。	<b>知・技</b> 過去形の表現を正しく理解している。言葉で表現する技能を身に付けている。【行動観察】 <b>思・判・表</b> お互いのことを知るために、伝え合っている。 【行動観察】 <b>主</b> これまでの学習の中で気付いたことを活かしながら、伝え合おうとしている。【ワークシート】
7	・アルファベットの文字と音との関係に気を付けて、聞いたり、発音したりする。	◎アルファベットの文字と音との関係について理解を深める。	

#### 4 単元と児童

##### (1) 単元について

本単元では、現在形と過去形の表現の違いに気付き、過去形の表現に慣れ親しみながら、夏休みの経験を伝え合う。題材が「夏休みにしたこと」であるため、児童は友だちや教師の話を進んで聞きたいと思うと同時に、自分の経験も伝えたいとも思うであろう。実際に自分が経験したことを話す題材であることから、本当の自分の考えや気持ちを伝えやすい単元であり、伝え合う楽しさを実感することができるだろう。

##### (2) 児童の実態

本学級は、どの学習にも前向きに取り組む児童が多い。その中でも、特に外国語の学習には意欲が高く、進んで英語で伝え合おうとする姿が見られる。人との関わりを楽しみながら、学びを広げ、深める様子も見られる。本単元では、自分の夏休みの経験を伝え合うことになる。より言葉で伝え合う楽しさを実感できるように、表情豊かに伝えたり、相手の話に反応したりすることを意識できるようにしたい。

#### 5 本時の展開（令和7年9月16日実施）

##### (1) ねらい

夏休みにしたことや感想を尋ねたり、伝えたりする活動を通して、過去形の表現を適切に使い、進んで自分の経験や気持ちを伝え合おうとしている。

##### (2) 展開の構想

導入部では、A L Tと Small Talk を行い、外国語科の授業の雰囲気を作るとともに、本時の活動の具体的な見通しがもてるようにする。Small Talk の内容も、児童がまだ知らない内容について話すことで、進んで聞いたり、伝えたりしたいという思いを高められるようにする。

展開部では、言語活動において、目的や場面、状況を具体的に設定し、提示する。また、中間指導の場面を設け、どうしたらよりよく伝えられるか、児童自身が解決策を考え、改善できるようにする。

終末部では、自身の成長を実感できる振り返りとなるようにする。

##### (3) 展開

時間 (分)	○学習活動	◎教師の働き掛け T: 教師の言葉 C: 予想される児童(生徒)の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 (10)	○挨拶をする。	◎挨拶で外国語科の雰囲気を作る。 C: Hello, Ms. Chris. Hello, Mr. Ryo. How are you? How is the weather? What day is it? What's the date?	◇挨拶やSmall Talkでたくさんの英語を話し、子どもたちの英語を楽しもうとする意欲を高めるようにする。

	<p>○教師の Small Talk を聞く。</p> <p>○本時のめあてを考える。</p>	<p>◎Small Talk(夏休みにしたことや感想を尋ねたり、伝えたりする会話)で、本時の活動の見通しをもてるようにする。</p> <p>T1: What did you do in your summer vacation? T2: I enjoyed ~. It was ~. T1: Nice! T2: How about you? What did you do? T1: I went to ~. It was ~. T2: Great! T1: What did you do, ~? C: I ~. T1: How was it? C: It was ~. T1: Good! Nice English.</p> <p>◎児童に本時はどんなめあてにするか問いかける。</p> <p>T1: 夏休みの思い出について、伝え方をたくさん聞いてきましたね。今日はどんなめあてにしますか。 C: 実際に自分たちで伝えてみたい。</p>	<p>◇3~4人の子どもたちにも話しかけ、英語を話しやすい雰囲気を作るようにする。</p> <p>◇聞こえた言葉に着目させ、どのような会話をしていたか、簡単に共通理解を図る。</p> <p>◇児童の言葉からめあてを設定する。</p>
夏休みにしたことや感想を尋ねたり、伝えたりしよう!			
<p>展開 (30)</p>	<p>○夏休みについて、伝え合う。(1回目)</p> <p>○よりよく伝え合うためには、どうしたらよいか考え、改善する。</p> <p>○夏休みについて、伝え合う。(2回目)</p>	<p>◎既習事項で夏休みについて伝え合うことができるようにする。</p> <p>T1: それでは、今まで聞いたり、言ったりした英語を思い出しながら、伝え合ってみましょう。 C: Hello! What did you do? I enjoyed ~. It was ~. C: (なんて言えばいいのかな。) C: (もう少し練習したいね。)</p> <p>◎伝え合ってみて、困ったことや、もっとよくしたいことについて考え、改善できるようにする。</p> <p>T1: 伝え合ってみて、困ったことや、もっとよくしたいことはありませんか。 C: 言い方を忘れたから確認したい。 C: 反応があった方がいいと思う。</p> <p>◎夏休みについて伝え合うことができるようにする。</p> <p>T1: では、もう一度、伝え合ってみましょう。 C: Hello! What did you do? I enjoyed ~. It was ~. C: (自信をもって、言いたいことが言えた!)</p>	<p>◇最初に、目的や場面、状況を具体的に設定し、黒板に提示する。</p> <p>目的: 友だちと夏休みの思い出を伝え合う。 場面: 夏休みの思い出を尋ねたり、伝えたりする。 状況: お互いにまだ夏休みの思い出をよく知らない。</p> <p>◇友だちから聞いたことをワークシートにメモするように指示を出し、いろいろな人と会話できるようにする。</p> <p>◇改善点を明確にするために、会話する際のポイントを思い出させる。</p> <p>○自分が意識することを明確にもつ。</p> <p>◇児童が必要だと感じる練習をしたり、意識を確認したりする。</p> <p>◇ALTとともに、子どもたちの様子を見取り、必要であれば声を掛ける。</p> <p><b>知・技</b> 過去形の表現を適切に使い、進んで自分の経験や気持ちを伝え合っている。</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>○振り返りを記入する。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>◎今日の学びを振り返るように声を掛ける。</p> <p>T1: That's all for today. C: Thank you, Ms. Chris. Thank you, Mr. Ryo.</p>	<p>◇一人一人見て回り、励ましの声を掛ける。</p>

#### (4) 評価

過去形の表現を適切に使い、進んで自分の経験や気持ちを伝え合っている。

【知識・技能 行動観察】

## 6 実践を振り返って

### (1) 授業の実際

#### ① 導入部

A L T と Small Talk を行い、外国語科の授業の雰囲気を作ることができた。また、教師対教師から、教師対児童の会話へ変えていくことで、自然と本時の活動の具体的な見通しをもたせることができた。児童と会話した際には、“I enjoyed ～.” という表現を使う児童が多かった。また、正確ではない英語 “It was enjoyed.” を使う児童もいた。本時のめあては、児童の言葉から設定することができた。

#### ② 展開部

目的や場面、状況を確認し、1 回目の活動に入ることができた。ペアやグループという指定をしなかったが、全員と会話するという目標があったため、何もせず時間を持て余すような児童の姿は見られなかった。英語が分からなくなってしまう子も、友だちから教えてもらいながら、話す姿が見られた。

中間指導では、児童に困ったことや、もっと良くしたいことについて聞いてみたが、それほど意見が出なかった。児童からは、「考える時間が欲しい」、「メモを書きたい」、「繰り返し言ってみよう」といった個人での活動が多く提案された。一人で解決が難しい児童もいると考え、自由に席を立ち歩き、交流して良いことを伝えた。

2 回目の活動では、より自信をもって会話することができていた。ただし、電子黒板に英語の会話例文が映っていたため、それを見ながら話してしまう子もいた。全員と会話するという目標があったが、時間が少し足りず、全員とは会話できなかった。

#### ③ 終末部

児童の振り返りを見てみると、「次回は全員と会話したい」という前向きなコメントが多く見られた。また、「2 回目は〇〇を意識できた」というコメントも多くあり、中間指導の効果が確認できた。

### (2) 研究テーマに関わる評価

研究単元の事前と事後で、「進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする意識」について授業アンケートを実施した。また、その理由についても記述させた。(図1、図2)

図1 国際科の意識についてのアンケート(研究単元前)

国際科の意識についてのアンケート	
( ) 番 名前 ( )	
このアンケートは、国際科での皆さんの授業中の意識を調べるためのものです。成績とは全く関係ありませんので、安心して答えてください。	
【質問】	これまでの1学期(L1~L3)の授業では、「進んで互いの考えや気持ちを伝え合おう」と思っていましたか。当てはまるもの1つを、○で囲んでください。
【回答】	( とてもそう思う ・ やや思う ・ やや思わない ・ 全くそう思わない )
【回答した具体的な理由】	

図2 国際科の意識についてのアンケート(研究単元後)

国際科の意識についてのアンケート	
( ) 番 名前 ( )	
このアンケートは、国際科での皆さんの授業中の意識を調べるためのものです。成績とは全く関係ありませんので、安心して答えてください。	
【質問】	L4の授業では、「進んで互いの考えや気持ちを伝え合おう」と思っていましたか。当てはまるもの1つを、○で囲んでください。
【回答】	( とてもそう思う ・ やや思う ・ やや思わない ・ 全くそう思わない )
【回答した具体的な理由】	

#### ① 進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする意欲について

授業アンケートの回答について、「とてもそう思う」を4点、「やや思う」を3点、

「やや思わない」を2点、「全くそう思わない」を1点として、分散分析を行った。その結果、研究単元の事前から事後にかけて、有意な得点の上昇は確認されなかった。

(表2、表3、図3)

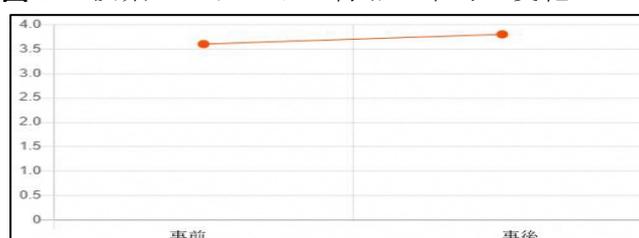
表2 授業アンケートの得点の平均と標準偏差

		人数	平均	標準偏差
授業アンケートの得点	事前	17	3.5882	0.5999
	事後	17	3.7647	0.4242

表3 授業アンケートの得点の分散分析表

	平方和 (SS)	自由度 (df)	平均平方 (MS)	F 値
個人差 (Sub)	5.9412	16	0.3713	
年齢群 (A)	0.2647	1	0.2647	1.31 ns
s×A	3.2353	16	0.2022	
全体	9.4412	33		

図3 授業アンケートの得点の平均の変化



②進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする記述について

授業アンケートにおいて、研究単元の事前から事後にかけて得点が上がった児童の記述が表4である。なお、( )内の数字は、授業アンケートの得点を表している。

表4 研究単元の事前から事後にかけて得点が上がった児童の理由 (下線は実践者による)

児童	事前の記述	事後の記述
A	自分の好きな食べ物とかのシートを使って、 <u>友だちに紹介したり、聞いたりするのをがんばったから。いろいろな人のことを知ろうと思ってがんばったから。</u> (3点)	夏休みのことを自分から進んで伝えたり、聞いたりしたから。シートを書いて、動画を撮るときは <u>聞こえる声ではっきりと言うことを意識したから。</u> (4点)
B	自分たちの町を紹介する授業では、自分の町の良いところを見つけて、 <u>いろいろな人に伝えることができた。</u> (3点)	交流タイムで積極的に意見を交換し、 <u>全員と話すことができたから。相手に伝わりやすいように、はっきり、ゆっくり言い、話し方を工夫したから。</u> (4点)
C	進んで互いの考えや気持ちを伝え合うのを英語が苦手だから、全く思わないわけではないけど、 <u>進んで伝え合うのはあまりやらないから。</u> (2点)	<u>F先生(前担任)などに伝えたり、発表したりしたから。</u> (3点)
D	L1のとき、ワークシートの発表する紙に、長い文の英語が書けて、練習したら長い文も言えるようになったから、発表したいという気持ちがあったから。 (3点)	18人 <u>全員と話すことができたから。</u> (4点)
E	<u>友だちの意見を知りたいから。友だちとの関係も深まると思うし、どう思っているかを相手に伝えると、相手がどう思っているかが分かるから。</u> (3点)	<u>みんなの意見を</u> を知りたいし、伝えたいから。 (4点)

### ③考察

授業アンケートの得点について分散分析を行った結果、研究単元の事前から事後にかけて、有意な得点の上昇は確認されなかった。本研究で実施した2つの手立てによって、進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする意欲を高めることができたとは言いがたい。

一方、授業アンケートにおいて、研究単元の事前から事後にかけて得点が上がった児童の記述を分析すると、大きく分けて2つの変化が見られた。

1つ目の変化は、相手意識が強まったことである。児童A、B、Cの記述を見ると、研究単元前は「がんばった」、「できた」という自分に関する記述が見られた。しかし、研究単元後は「聞こえる声ではっきりと言うことを意識した」、「相手に伝わりやすいように、はっきり、ゆっくり言い、話し方を工夫した」、「F先生（前担任）などに伝えたり、発表したりした」という相手意識に関する記述が見られた。これは、本研究の手立て①「目的や場面、状況の具体的な設定と提示」の成果ではないだろうか。特に、どのような相手に伝えるかという「状況」を明確にしたことにより、相手意識が強まったのだと考えられた。

2つ目の変化は、クラス全員の考えを知ろうという意欲が高まったことである。児童A、B、C、D、Eの記述を見ると、研究単元前は自分ができるようになったことに関する記述や、「いろいろな人」、「友だち」という記述が見られた。しかし、研究単元後は「全員と話す」、「みんなの意見」という言葉があり、クラス全員の考えを知ろうとする記述が見られた。これは、本研究の手立て②「興味・関心をもてる身近な題材や環境（目的や場面、状況）の設定」の成果ではないだろうか。特に研究授業では、全員の夏休みの思い出を知る必要感をもたせ、「全員と会話する」という目標を設定したことにより、特定の友だちだけではないクラス全員の考えを進んで知ろうという意欲が高まったのだと考えられた。

### (3) 今後の課題

本研究で実施した2つの手立てによって、進んで互いの考えや気持ちを伝え合おうとする意欲を高めることができたとは言えなかったが、相手意識やクラス全員の考えを知ろうという意欲を高めることはできた。本研究単元では、ゴールを「前担任であるF先生に夏休みの思い出を伝える」と明確に設定したので、夏休みの思い出を友だちとも伝え合う必要感が高めることができたと考えられた。単元のゴールに向けて、それまでの活動にも児童が「考えや気持ちを伝えたい」と思えるような工夫を今後も考え続けていきたい。

### <引用・参考文献>

直山木綿子，小学校外国語教育の指導と評価，文溪堂，2021.

直山木綿子，イラストで見る前単元・前時間の授業のすべて 外国語小学校6年～令和2年度全面実施学習指導要領対応～，株式会社東洋館出版社，2021.

澤井陽介，授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善，株式会社東洋館出版社，2023.